

優秀賞 全日本中学校長会会長賞

水が育む日本の美しさ

群馬県 伊勢崎市立第四中学校

一年 芝崎 遥奈

私には、心から感動した風景があります。それは、初めて飛行機の中から見た沖縄の海です。小さな窓から見えた海は、絵や写真では表せない程の美しい色をしていました。私が沖縄を訪れたのは、小学四年生の時、西表島のエコツアーに参加する機会があったからです。私は、そこで漂着ごみやマングローブ植林などの様々な環境に対する学習をしました。そして、島では生活排水を出来るだけ減らすなどの、数々の水をめぐる環境を守る努力がされている事を知りました。

蛇口をひねれば、当たり前に出ってくる水。水資源の豊富な群馬に住んでいる私は、疑問に思った事も無かったのですが、沖縄にいた数日間、それは当たり前ではないのだと気付かされました。

「自然の恵みを少しだけ分けてもらい、無駄に自然を使わない。」それは、島に生きる人々の知恵なのだそうです。

こうして自然を守り抜く西表島で、私達はマングローブ染めの体験をしました。そこで、驚いたのは、染めた布を西表の澄んだ海の中に浸けた事です。そうすると海水の作用で、きれいな色に仕上がるのだと聞きました。これは、美しい海の水だから出来る業なのだそうです。

父も、赤城の座繰り糸を使って、着物を作っています。染めの材料は、藍や様々な木の実や樹皮です。それを、やはり必要な分だけ煮出し、染料にしています。

着物を作るのには、沢山の水を使います。まずは染める前に、糸を水に浸して染めやすくします。木の実や樹皮の染料を作るのも、多くの水が必要です。そして、染めた糸も、後で色が落ちない様、念入りに水洗いを何回もします。布に織り上げた後も、「のり抜き」と呼ばれる洗濯の様な作業をします。

これらの、どの工程にも欠かせないのは、きれいな水です。そして、そこで使っている水は、主に利根川から運ばれる地下水を汲み上げています。この豊富な水が無くては、父の仕事は成り立ちません。

去年の停電の時、昼間は仕事が出来ると思っていた父が、水を汲み上げる電動ポンプが動かなくなってしまう、全く仕事にならないと苦笑いをしていました。この時、着物を作るのに、水は、とても大切なものだという事が、良く分かりました。

「沖縄」と「群馬」。この様に、場所が違っても、きれいな水から美しい布が作られています。私は日本の文化にとって、水は欠かせないものなのだと感じました。

日本は、水に囲まれた小さな島国です。この国には、様々な顔を持つ四季があり、その景色の中には、柔らかく温かな優しい色があふれています。父の着物に表現されるそれは、豊富な水が育む美しさなのだと思います。私は、この日本の色を失わないために、自然を大切にしていかなくはないと思います。

私は今、沖縄から持ち帰ったマングローブを育てています。マングローブは、多くの島国で侵食を防ぐために植林されています。その他にも、この木は多くの酸素を出し、海の水を浄化する可能性を秘めています。

私は、それを証明する実験を自分なりに続けています。この木に限らず、私は、これからも環境を守る働きがある植物を見つけ、研究してみたいと思っています。私の結果は、小さいものかもしれないけれど、いつか役立つ時が来れば良いなと思っています。

そして自然の力を使って、様々な場所の海や川が、本来の美しさを取り戻せる未来が来る事を、私は心から願っています。